



2020年7月7日
東日本旅客鉄道株式会社

新造する新幹線に台車モニタリング装置を搭載します

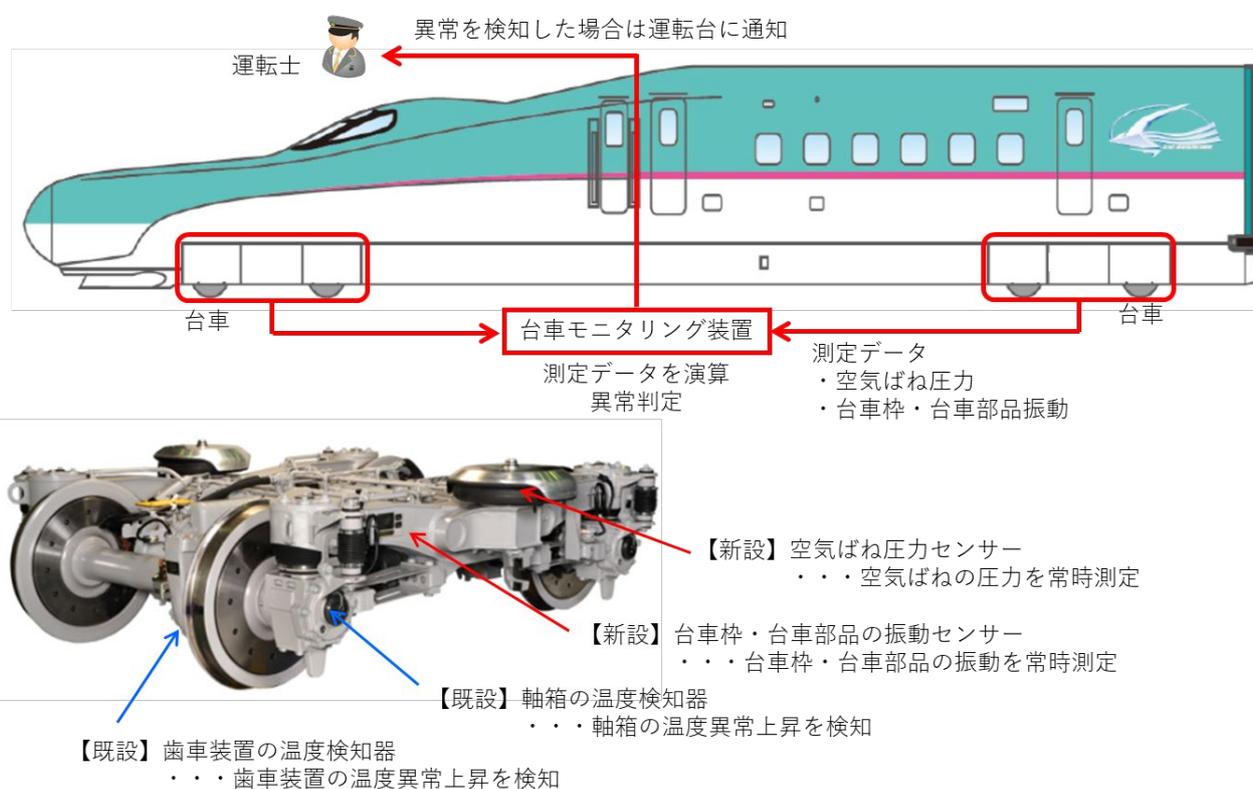
～新幹線車両の台車異常を早期に検知して更なる信頼性向上を目指します～

JR東日本では、安全性・安定性・快適性を高め、安心してご利用いただける鉄道づくりを推進し、輸送品質の向上を追求しています。

このたび、2021年秋以降落成する新幹線の新車に、台車の異常を運転台に知らせる台車モニタリング装置を搭載することとしました。各種試験を行い、2023年春から順次使用開始する予定です。

1. システム概要

空気ばねの圧力センサーと台車の振動センサーを新設し、これらのセンサーで取得したデータを台車モニタリング装置に集約し演算します。その結果をもとに異常判定を行い、異常と判断した場合には運転士に通知します。このシステムを搭載することにより、台車枠亀裂等の異常を早期に検知し、これまで以上の信頼性を確保することができます。



2. 使用開始時期

2023年春から順次使用開始する予定です。

3. その他

既存車両への搭載については、施工方法を検討しています。